

# 県内景気は 緩やかに 回復している

## 海邦総研県内景気動向調査 (2022年4-6月実績、7-9月見通し)

今期(2022年4-6月)の県内企業の景況判断BSIは9.9で「上昇」超。行動制限措置がない中で、県民需要が大きく回復したことや、観光客数が回復し、広く産業を下支えしたことから「県内景気は緩やかに回復している」。

来期(7-9月)の景況見通しBSIは24.0で「上昇」超。県民需要、県外需要の更なる回復を見通す企業が多くなっている。ただし、各種資源の高騰が経済回復の重しとなっているだけでなく、コロナ感染者数が依然として多数発生しているなど、下振れリスクも多くなっている。

### OVERVIEW 業種別概要

#### 観光 関連

#### 景気は大きく上向き。単価改善が課題

「行動制限無し」で繁忙期を迎えることができ、4-6月期のBSIは58.1で大きく「上昇」超。7-9月期も54.8で引き続き大きく「上昇」超。稼働率の回復に合わせ、単価の回復が今後の課題となっている。

#### 建設・ 不動産 関連

#### 建設は「下降」超、非居住用の案件少なく

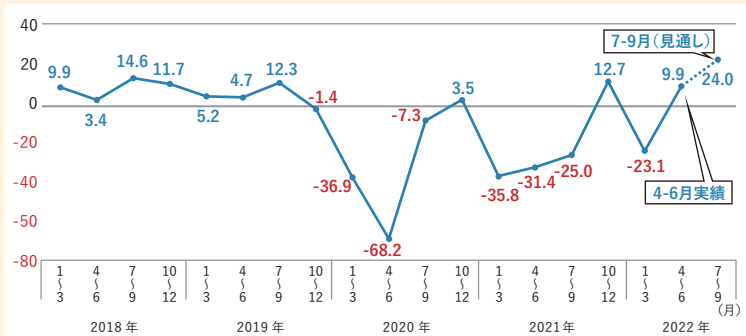
4-6月期のBSIは、建設業が-18.1、不動産業等が17.1と、両業種で明暗が分かれた。持ち家やマンションの着工は前年比で増えているものの、非居住用は金融業、保険業用途の建築物を除き軒並み落ち込んだ。民間の見積もり依頼などの動向から、建設業は7-9月期を5.6の「上昇」超と見込んでいる。

#### 食品・ 消費・ サービス 関連

#### 「行動制限無し」で全体として「上昇」超

4-6月期 BSIは卸売・小売業が4.0、飲食サービス業が40.0で共に「上昇」超。「行動制限無し」により、全体として需要が回復した。各種資源高騰などのマイナス材料はあるものの、県民需要、県外需要の伸長が見られ、7-9月の見通しも、更なる回復を見通す企業が多くなっている。

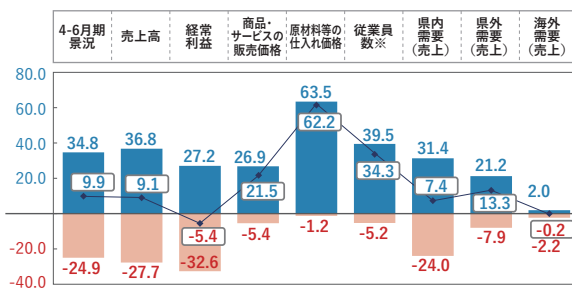
### これまでの景況判断BSI推移



### 業種別景況グラフ

■全業種 (現状)

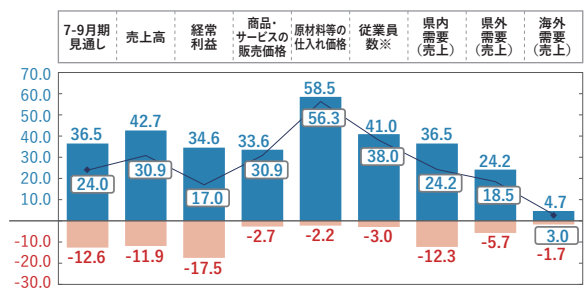
図1



※ 従業員数については、①不足気味 ②適正 ③過剰気味  
①上昇 ②適正 ③減少

■全業種 (見通し)

図2



※ 従業員数については、①不足気味 ②適正 ③過剰気味  
①上昇 ②適正 ③減少

## 県内企業の景況判断BSI

### ■現状と見通し

【実績(2022年4-6月期)】

- 全体の景況判断BSI(実績)は、9.9で「上昇」超

【見通し(2022年7-9月期)】

- 全体の景況判断BSI(見通し)は、24.0で「上昇」超

### ■主要業種別結果

【実績(2022年4-6月期)】

- 「上昇」超は、旅行・宿泊業(58.1)、飲食サービス業(40.0)、その他のサービス業(20.0)、不動産業等(17.1)、製造業(5.3)、卸売・小売業(4.0)となっている。

- 「下降」超は、建設業(-18.1)、医療・福祉(-14.3)のみ。

【見通し(2022年7-9月期)】

- 全て「上昇」超。旅行・宿泊業(54.8)、卸売・小売業(40.0)、飲食サービス業(33.3)、不動産業等(25.7)、情報通信業(23.8)、その他のサービス業(22.1)、医療・福祉(14.3)、建設業(5.6)、製造業(2.6)となっている。

企業の景況判断 BSI(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

	2021年			2022年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期
	調査実績	調査実績	調査実績	調査実績	調査実績	見通し
全体 BSI	-31.4	-25.0	12.7	-23.1	9.9	24.0
建設業	-47.7	-28.8	-9.6	13.1	-18.1	5.6
製造業	-12.2	-22.7	11.8	-36.6	5.3	2.6
情報通信業	-5.6	-15.8	4.8	0.0	0.0	23.8
卸売・小売業	-28.1	-37.0	11.7	-22.4	4.0	40.0
不動産業等	-11.6	-6.7	-15.6	6.1	17.1	25.7
旅行・宿泊業	-44.2	-25.0	44.1	-41.7	58.1	54.8
飲食サービス業	-88.9	-41.2	57.9	-71.4	40.0	33.3
医療・福祉	-18.8	-4.8	-4.3	-43.8	-14.3	14.3
その他のサービス業	-26.8	-18.8	26.1	-36.0	20.0	22.1

今回調査

## 全体結果

### ■ 4-6月期の実績BSI 全体 実績 図1

4-6月期の景況BSIは9.9で「上昇」超。売上高は「上昇」超だが、経常利益は「下降」超となっている。販売価格は「上昇」超。仕入れ価格は大きく「上昇」超となっている。設備は「不足」超、従業員数は大きく「不足」超。臨時・パート数は若干「減少」超となっている。県内需要、県外需要は「上昇」超。海外需要は若干「下降」超となっている。

### ■ 7-9月期の見通しBSI 全体 見通し 図2

7-9月期の景況見通しは24.0で「上昇」超。売上高、経常利益共に「上昇」超となっている。販売価格は「上昇」超。仕入れ価格は大きく「上昇」超となっている。設備は「不足」超、従業員数は大きく「不足」超。臨時・パート数は「増加」超となっている。県内需要、県外需要は共に「上昇」超。海外需要も若干「上昇」超となっている。

## 主要業種別結果

### 【建設業】 図3

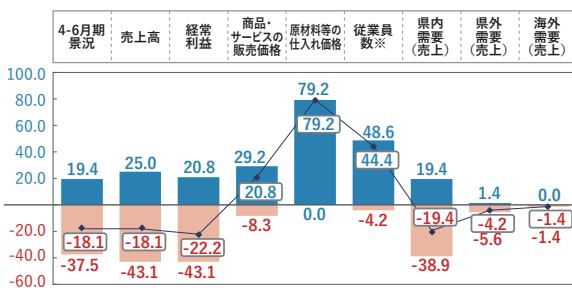
4-6月期の景況は-18.1で「下降」超。売上高、経常利益共に「下降」超となっている。販売価格は「上昇」超。仕入れ価格は大きく「上昇」超となっている。設備は「不足」超、従業員数は大きく「不足」超。臨時・パート数は「減少」超となっている。県内需要、県外需要、海外需要とも「下降」超となっている。

### 【製造業】 図4

4-6月期の景況は5.3で「上昇」超。売上高は「上昇」超、経常利益は「下降」超となっている。販売価格は「上昇」超。仕入れ価格は大きく「上昇」超となっている。設備は「過大」超、従業員数は「不足」超。臨時・パート数は「減少」超となっている。県内需要、海外需要は「下降」超。県

### ■ 建設業

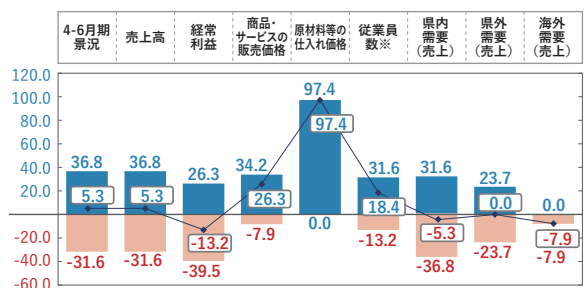
図3



※ 従業員数については、①不足気味 ②適正 ③過剰気味

### ■ 製造業

図4



※ 従業員数については、①不足気味 ②適正 ③過剰気味

外需要は0.0となっている。

【卸売・小売業】 図5

4-6月期の景況は4.0で「上昇」超。売上高は「上昇」超、経常利益は「下降」超となっている。販売価格、仕入れ価格共に大きく「上昇」超となっている。設備、従業員数は「不足」超、臨時・パート数は若干「増加」超となっている。県内需要、県外需要、海外需要共に「上昇」超となっている。

【旅行・宿泊業】 図6

4-6月期の景況は58.1で大きく「上昇」超。売上高、経常利益共に大きく「上昇」超となっている。販売価格は「上昇」超。仕入れ価格は大きく「上昇」超となっている。設備は「不足」超、従業員数は大きく「不足」超、臨時・パート数は「減少」超となっている。県内需要、県外需要は大きく「上昇」超、海外需要は「下降」超となっている。

【飲食サービス業】 図7

4-6月期の景況は40.0で大きく「上昇」超。売上高は大きく「上昇」超、経常利益は0.0となっている。販売価格、仕入れ価格共に大きく「上昇」超となっている。設備は0.0、従業員数は「不足」超。臨時・パート数は「増加」超となっている。県内需要、県外需要、海外需要共に「上昇」超となっている。

観光関連概況

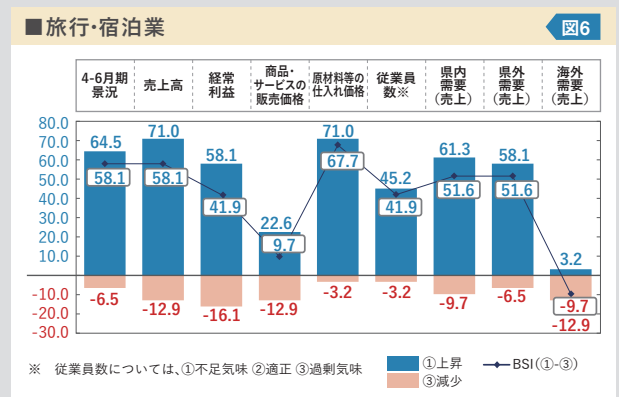
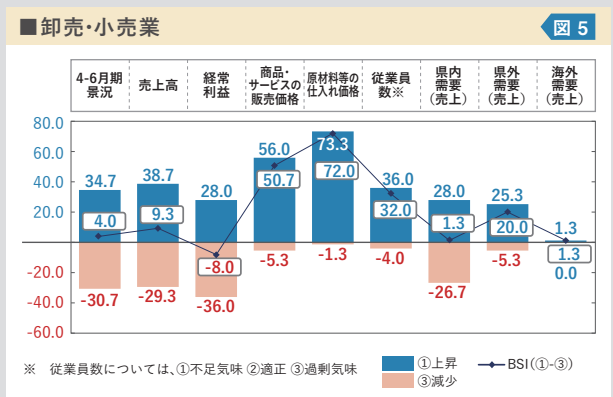
観光関連の今期(4-6月)の景況判断BSIは58.1で、大きく「上昇」超となった。大幅なBSIの上昇は、春休み、ゴールデンウィークなどの繁忙期を「行動制限無し」で迎えることができたことが大きい。5月の入域観光客数は39万6800人と、前年の2倍に増加。特にGWは日並びが良く、多くの観光客が来県し観光現場は活況を呈している。緊急事態宣言等が繰り返されていた今年初めまでとは違い、

市場においても観光サービス提供者においても明らかなマインド回復が見られる。

一方、GWに観光客が押し寄せる中で、かねてより懸念されていたレンタカーや人手不足の問題が改めて露呈している。レンタカー不足を理由とする旅行自体のキャンセルが一定数あったようで、旅行会社からは、「こんなにキャンセルが出るとは思わなかった」との声が聞かれている。また、客の多さに人手が追い付かず「フロントでかなり待たせてしまった」という声が複数のホテルから聞かれた。ただし、夏休みに向けた人手確保については慎重で、これまでの経験則から、コロナ禍が治まらない中で「繁忙期の水準に合わせた人員体制」を採ることについてリスク視があるようだ。

全体として良い方向に進んでいる中、喫緊の課題は単価の回復だ。特にホテルにおいては、各種資源や食材が高騰しているのにも関わらず価格転嫁は進んでおらず、単価は未だコロナ前の5~7割に留まっているようだ。このため、稼働率がいくら回復しても売上・利益はかなり圧迫されているという。こうした状況打開に向け、各社は値上げのタイミングを探るものの、市場がついてきてくれるかという不安も大きく、値上げの動きも慎重だ。

来期(7-9月)の見通しBSIは54.8で、景気の方角性は引き続き大きく上向いている。行動制限無しでの夏休み、GoTo再開、外国客受け入れ再開への期待などが大きな要因だろう。予約状況も、特にお盆連休の集客は確実にされている。お盆以外についてはまだ動きが鈍いとの声も聞かれたが、昨今は、観光客がぎりぎりまで感染者の動向を確認した上で予約する「予約の間際化」が進んでおり、直前まで上積みの機会があるようだ。ただし、これまで同様、感染者が増えれば予約が鈍ることが想定され、不透明感は大きいと言える。



## 建設・不動産関連概況

4-6月期の景況判断BSIは、建設業が-18.1、不動産業等が17.1と、両業種で明暗が分かれる結果となった。建設においては持ち家やマンションの着工は前年比で増えているものの、非居住用は金融業、保険業用途の建築物を除き、軒並み落ち込んだ。公共に関しては、県内全体でボリュームが目減りしているとの声が聞かれ、米軍基地関連や離島の自衛隊基地関連で安定した量の発注が続く防衛省事業への参入を伺う業者が増えている。資材高騰に伴う民間投資の案件減少が影響してか、売上確保のために利益度外視の金額で工事を受注するケースも見られた。

建設業に関し、2022年3-5月の県内の統計を見ると、建築着工全体の工事予定費額は前年比で13%減、前々年比で9%減と減少している。そのうち居住用は前年比で15%増、前々年比で4%減となっている。非居住用は前年比で28%減、前々年比で12%減となっている。居住用は回復の途上、非居住用は減少が続いている状況だ。

中堅・上位企業へのヒアリングでは「4月以降に民間工事の受注が相次ぎ、ようやく市場が動き出してきた感がある」など明るい声が聞かれた。一方で下請や孫請を担う中小・小規模事業者は案件減少の中で資金繰りを優先して、元請事業者に対し、従前より安価な見積もりを提示するケースも見られているようだ。

資材高騰と工期の長期化のトレンドは変わらず、資材価格の見積書の有効期限が短くなったり、1年半後の工事終盤に必要な仕上げ材の納品遅れが着工時から予告される事態が生じたりと、利益確保や工期の面では厳しい状況が続いている。

不動産業等に関し、ヒアリングでは「各種経済指標と連動した取引ではなく、『今後回復に向かいそうだ』というマイ

ンドに引っ張られている感が強い」との声があった。とりわけ県外から沖縄への投資意欲が回復してきていることがうかがえる。

民間工事の見積もり打診などの動向から、来期(7-9月)の見通しBSIは建設業5.6、不動産業25.7で、共に上昇超を見込んでいる。

## 食品・消費・サービス関連概況

今期(4-6月)の卸売・小売業の景況判断BSIは4.0、飲食サービス業のBSIは40.0で共に「上昇」超となっている。前期(1-3月)の大半(1月9日~2月20日)において、重点措置が取られていたのと比較し、今期は制限措置もなかったことから、全体として回復した。

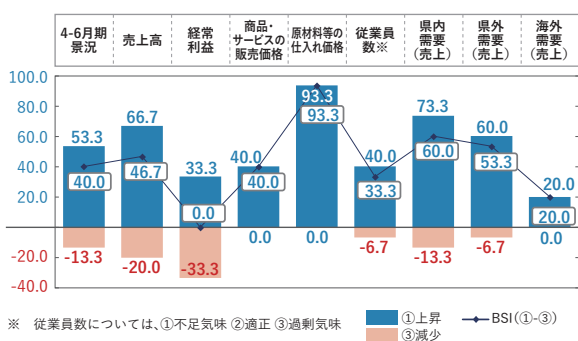
卸売・小売業においては、観光客が回復するなど特に県外需要の上昇が景況に大きく影響を与えたようだ。一方で、仕入れ値の上昇に伴い販売価格も大きく上昇していることから、県民の普段使いの需要は今一つ伸び悩んでいる。

BSIが大きく「上昇」超となった飲食サービスは、県民需要、県外需要共に大きく伸長した。食材等の高騰が著しいものの、それ以上に、行動制限が無いことにより、外食をしても咎められない気運が醸成され、県民においても外食需要が大きく回復していることが大きく影響しているようだ。今後の見通しは、卸売・小売業は40.0、飲食サービス業は33.3で共に大きく「上昇」超となっている。各種資源の高騰や販売価格の値上げはマイナス材料だが、コロナ禍から脱却の中で、県民需要、県外需要のさらなる回復を見通す企業が多くなっている。

※同調査結果については、海邦総研HPで公開しております。  
ご興味のある方は、ご覧ください。

### ■ 飲食サービス業

図7



※調査概要は以下のとおりである。

- 調査目的:沖縄県内企業の経営の実態と見通しを把握し、今後の各企業の経営の参考情報として提供することを目的として実施した。本調査は、各種経済関連指標だけでなく、県内企業へのアンケートおよびヒアリング等を実施し、県内景気の現状と見通しについて整理を行った。
- 調査対象:原則、県内に本社所在地がある2000企業が対象。調査対象有効企業数は宛先不明として返送されてきた30企業を除いた1970社。
- 回答状況:405社(有効回答率20.6%)  
なお、本調査は、以下2点の特徴がある。
  - ・小規模企業における景況も反映されたものとなっている。
  - ・本調査においては、県内企業の各種BSI(Business Survey Index)を算出した。算出方法は、以下の通り。  
BSI=(「上昇」と回答した企業構成比)-(「下降」と回答した企業構成比)  
※BSIは景気の現状や先行きを「上昇」「下降」といった前期と変化した方向で判断する指標である。BSIがプラスであれば、企業の景況や各種項目が前期と比較して好調であるということであり、BSIがマイナスであれば、景況や各種項目が前期と比較して不調と考えられる。